

柴田小学校と千鳥小学校及び白水小学校の統合(案)に対するご意見・ご質問と、教育委員会の考え方について(詳細版)

・2月に配布または回覧した資料へのご意見・ご質問(令和6年2月から5月までにいただいたもの)と教育委員会の考え方をまとめたものです。ご意見・ご質問は28件でした。(配布・回覧先:柴田小、千鳥小及び白水小の保護者の皆様、地域にお住まいの皆様)

・内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

1 統合案について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	・3校が統合することで充実した学校生活が送れると思う。是非、実現してほしいです。 ・もっと早く実施すべきだった。3校統合に賛成。1日も早く実施してください。 ・小規模校の課題は工夫で解決できると思います。少人数の方が教員の負担も少なくなると思います。 ・学校規模と教育効果は関係ない。統合すると学校が荒れる。学校がなくなった地域は子育て世代が来なくなる。	学校教育では、子どもたちが集団の中で多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。 教育委員会では、小学校ではクラス替えが可能な12学級以上を「望ましい学校規模」と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。 小規模校には、「学校行事で活躍の場が多い」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技や音楽の合唱などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」といった課題などがあります。 また、小規模校では教員数も少なくなるため、子どもたちの良さが多面的に評価されにくい可能性があったり、教員一人あたりの校務や行事にかかわる負担が重くなったりする等、学校運営面における課題も発生します。 なお、1学級あたりの児童数については、小学校1、2年生は30人、3年生から6年生は35人とする少人数指導を行っていますので、学校規模とは直接の関係性はありません。

		教育委員会としては、統合により、クラス替えのできる「望ましい学校規模」を確保し、子どもたちがこれまでよりも多くの考え方や価値観に出会い、社会性や協調性を伸ばす機会をつくることは早急に取り組むべき課題であると考えています。 なお、令和5年4月に統合した中区丸の内小学校と、平成29年4月に統合した西区なごや小学校において児童・保護者に対して実施したアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
2	・統合反対。通学のことを考えると、白水を2つに分けて柴田と千鳥の2校になるのはいけないのですか？ ・白水を二分して柴田と千鳥の2校に統合してほしいです。3校統合だと子どもに通学の負担がかかります。小規模校をうまく運営していく方法を考えてほしいです。 ・柴田小と白水小を統合して、白水小と千鳥小の境界線を一部変えればよいと思います。	ご意見のような白水小を二分して柴田小と千鳥小に分ける場合では、今後も少子化により児童数の減少傾向が続く中、再び小規模校になってしまう恐れがあります。 教育委員会としては、クラス替えのできる「望ましい学校規模」を確保するため、3校での統合が望ましいと考えています。
3	・中学との一貫校にして、白水の場所に災害時の仮設住宅設置場所を確保してほしいです。	小中併設型の統合校とした場合、中学校進学に伴う学習面や生活面のつまづき・負担、いわゆる「中1ギャップ」の緩和をはじめとした様々な効果が考えられます。 しかしながら、今回のケースで中学校（名南中）まで統合に含めると、学級数が30学級近い大規模校になってしまいます。また、敷地面積を考えると統合場所は名南中の場所（あるいは名南中と千鳥小両方の場所）が想定されますが、柴田学区の児童の通学距離が目安とする2kmを越えてしまいます。このように、本件の場合は小中併設型の統合校には適さないと考えています。

2 通学距離・登下校について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
4	・ 小学校の近くに家を購入したのに遠くなるため賛成できません。統合するならスクールバスや学区外通学の許可をしてほしいです。 ・ 通学距離が長くなり子どもの負担が大きいのでは？通学途中の交通事故の危険が高く心配です。 ・ 統合はよいと思います。重い荷物を持つての登校について対策してほしいです。 ・ 工事期に柴田へ通う子は遠いし交通事故も心配です。荷物も重く子どもの負担になります。子どもの通学の負担をよく考えて統合のことを決めてほしいです。 ・ 子育て世帯の意見を重視してほしいです。早く統合し、統合してよかったと言われるような立派な学校をつくってほしいです。交通の安全対策も期待します。 ・ 統合はよいと思う。柴田本通に歩道橋がほしいです。	本市では、小学校と中学校の通学は徒歩を基本とし、小学校は概ね2 km、中学校は概ね3 km を目安としています。3つの学区から白水小の場所までは、いずれもこの目安の距離を超えないことから、まずは子どもたちが徒歩で安全に、また安心して通学できる方策について検討したいと考えています。 通学の安全対策については、統合の前年度までに、両校の保護者や地域の方々とともに、具体的な通学路の設定とその安全対策について検討します。また、子どもたちの通学練習会を実施する等、交通安全指導にも取り組んでまいります。 通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物を少なくすることや熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。 また、不審者等に対する登下校時の防犯対策として、「子ども安全ボランティア」など地域の方による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども110番の家」などがあります。新しい通学路における安全対策については、こうした取り組みも踏まえながら、保護者・地域・学校とともに検討してまいります。 なお、通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携を行ってまいります。過去の統合の際には、関係行政機関と連携し、歩車分離信号や横断歩道の新設、注意表示の設置等の取り組みを行いました。

3 今後の見通しについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
5	・何年後に新しい学校に通うことになりますか？ ・別の学校で卒業となるので、今の1・2年生が卒業してから工事にしてほしいです。 ・統合の時期や見込み、校舎がどのようなになるのか知りたいです。 ・統合は駄目だが、もし統合したら校舎は防災のことを考えたものとしてほしいです。	現在「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」に基づき、地域や保護者等の皆様にヒアリングさせていただくことを通して事前調査をしている段階です。 令和6年2月に配布させていただいた資料では、「令和6年度頃までに教育委員会が統合の決定を行えば、その後約2年間で開校に向けた学校づくり等を行って統合校を開校、統合校の開校後約3年間で新校舎を建設した上で、新校舎に引っ越しする」というスケジュールをお示しました。 これは最短で統合決定をした場合の想定であり、統合の時期等が確定したものではありませんので、現段階では明確に工事時期をお伝えすることはできませんが、スケジュールの目安としてお考えください。 統合校の校舎をどのようなものにしていくかにつきましては、統合決定後の2年間で、統合後の児童数を踏まえ、新しい学びへの対応や、地域の防災機能といった点を考慮し検討していきます。

4 新校舎工事中に通学する学校について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
6	・白水の子が分かれないうようにしてほしいです。 ・全員でどちらかの学校に行って卒業してもらいたいです。 ・途中で東校舎・西校舎に分かれるようだが、入学時から校舎を選べるようにするなど、子どもの気持ちを最優先に考えて検討してほしいです。	新校舎の工事中に通学する学校については、原則白水小の児童全員が千鳥小に通うこととし、柴田小の児童はそのまま柴田小に通学することを検討しています。なお、白水小の児童のうち、柴田小に通う方が通学距離や安全面等のご事情がある場合は、柴田小を選択できることを検討しています。 統合により始まる新しい学校生活においては、通学する学校の変更、新しい友達との交友関係、慣れない通学路など、子どもたちは統合前に比べ、心身の負担が増えるものと考えており、その負担軽減を図ることは大変重要であると考えております。

	・統合予定の学校との交流等を早くから行うなど子どもの不安解消をしてほしいです。 ・クラスの子どもの割合を平等にしてほしい。交通指導員が従来通り各学区で見守ってくれるとありがたいです。	統合への子どもたちの不安を解消するため、統合前から合同で遠足や中津川野外学習を行うなど、児童の交流活動を行ってまいります。また、交流活動として合同でレクリエーションを行うこともあります。統合後も子どもたちがスムーズに学校生活を始められるよう、クラス編成に配慮したり、子どもたちの学習や生活の悩みを聞いてもらっているスクールカウンセラーの配置時間を増やしたりするなど、子どもたちの学校生活が軌道に乗るよう配慮してまいります。 また、従前どおり、それぞれの学区に1人ずつの交通指導員による見守りを行っていただく等、通学の安全対策についても検討してまいります。統合が正式に決まりましたら、保護者、地域、学校の皆さまのご意見を伺いながら、対策を検討してまいります。
--	--	--

5 跡地活用について

7	・統合賛成だが、跡地活用も一体に検討してほしいです。 ・跡地は防災センターとして地域活用できる建物を建設してほしいです。	統合後の跡地活用については、大きな課題であると認識しています。 本市ではこれまで5つの統合校を開校しましたが、跡地となった7か所の旧小学校は、統合後もすべて指定避難所となっています。跡地の活用方法は、統合の決定後、地域に必要な避難所機能など地域の関係者等のご意見もお聞きした上で、関係部局とも連携を図りながら全市的な視点で検討してまいります。 学校跡地の活用状況 https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000119794.html 
---	---	--

6 学区や PTA の活動について

8	・ 統合によって学区活動や P T A の活動はどうなるのですか。 ・ P T A 役員の取り決め事項もきちんと引き継ぐか、P T A の加入、非加入の意見を聞いてほしいです。 ・ 統合には基本的に賛成。P T A 役員の回数に配慮してほしいです。	統合案は、学校の統合であって学区の統合ではありません。統合が決まったとしても、これまで通り各学区としての活動を行っていただくことになります。なお、これまでの市内の統合校で、学区を統合した事例はありません。 また、PTA 役員の決め方を含め、活動内容につきまして、ご意見は学校を通じて各 PTA に伝えさせていただきますが、統合決定後に 3 小学校の PTA で活動内容を話し合って決めていただくことになります。
---	--	---